

原子炉利用研究者グループ幹事会 議事録

日時：2022年1月12日(水) 15:30～16:10

場所：Zoomによるオンラインミーティング

出席者（敬称略）

所外：瓜谷 章（名古屋大学）、中村 浩之（東京工業大学）、渡辺 賢一（九州大学）、鈴木 達也（長岡科学技術大学）、三浦 勉（産業技術総合研究所）、納富 昭弘（九州大学）、高橋 浩之（東京大学）、大場 洋次郎（日本原子力研究開発機構）、千葉 豪（北海道大学）、
所内：鈴木 実、櫻井 良憲、木野村 淳、近藤 夏子、堀 順一、高田 卓志、（事務局補佐）川口 昭夫（事務局）仲谷 麻希、小野 知子

添付資料

1. 原子炉利用研究者グループ規約改定・修正・追記（案）
2. 京都大学複合原子力科学研究所運営委員会委員候補者・共同利用研究委員会委員の推薦方法についての申合せ修正（案）
3. 原子炉利用研究者グループ令和3年決算報告書
4. 原子炉利用研究者グループ令和4年予算（案）
5. 令和4年度（2022年度）活動表（案）
6. 第4期中期目標期間における共同利用・共同研究拠点の認定のための要望書について（お礼）
7. 前回幹事会議事録（R3.6.8開催）

議題：

1. 規約改定・修正・追記について
2. 「京都大学複合原子力科学研究所運営委員会委員候補者・共同利用研究委員会委員の推薦方法についての申合せ」の修正について
3. 令和3年度事業報告・会計報告
4. 定期預金解約及び名義変更について
5. 令和4年度予算案
6. 令和4年度（2022年度）活動
7. 定期メール配信の停止及び会員名簿の公開について
8. メール審議について
9. 残高70万についての有効な利用方法について
10. 名誉会員の推薦について

報告：

1. 第4期中期目標期間における共同利用・共同研究拠点の認定のための要望書提出に対するお礼状について
2. その他

瓜谷代表幹事の司会で、議事次第に従い以下の通り幹事会が実施された。

議題：

1. 規約改定・修正・追記について
鈴木幹事より原子炉利用研究者グループ規約の改定について、前回の幹事会で承認された修正箇所についての説明がなされた後、以下の点の修正・追加について案が示された。
・記載の適正化として、「会」を「グループ」に、「役員」を「幹事」に修正するとと

もに、幹事の任期のところ、「再任を可とする。ただし」を追記する。

- ・幹事を選出するための選挙の有権者に関する記載について、規約が定めている会員カテゴリーを表す数字で表記するとともに、有権者の範囲の変更について提案がなされた。これまでは1) 共同利用研究を申請し採択された代表者、2) 専門研究会およびワークショップの申請者および開催責任者だけが有権者の範囲であったが、3) 複合研の運営委員会委員、共同利用研究委員会委員の会員も有権者の範囲に加えてはどうかという提案である。

本件について賛成多数により承認された。

2. 「京都大学複合原子力科学研究所運営委員会委員候補者・共同利用研究委員会委員の推薦方法についての申合せ」の修正について

鈴木幹事より上記申合せの修正について以下の提案があった。

- ・文中の「複合原子力科学研究所利用研究者グループ」を本来のグループ名称である「原子炉利用研究者グループ」に修正する。

本件について特に異論がなく承認された。

3. 令和3年度事業報告・会計報告

鈴木幹事より令和3年度事業報告・会計報告について説明があった。

令和3年決算報告については、前年度繰越金に預金利息を加えたものが収入であり、支出としては会計監査へ会計資料の郵便料金488円のみであったため、残額は予備費として次期に繰り越された。例年のようにオンサイトであれば共同利用湯茶費などの支出が発生するところであるが、令和3年1月から12月についてはオンライン実施ということで印刷経費・発送費以外の支出は発生していないとのことである。

本件について特に異論がなく承認された。

4. 定期預金解約及び名義変更について

鈴木幹事より600,000円の定期預金を解約し、普通預金に入金した結果、普通預金の差引残高が707,889円になったことと、通帳の名義を前代表幹事である海老原先生から複合研の事務局の仲谷さんに変更したとの報告があった。

本件について特に異論がなく承認された。

5. 令和4年度予算案

鈴木幹事より令和4年度予算案についての説明があった。令和4年度からは会計資料を電子的送信に切り替えるため印刷経費・発送費の支出はないとのことである。現状はオミクロン株が猛威をふるっている状況ではあるが、専門研究会がオンサイトで実施することを想定して、専門研究会5回分の湯茶代として会議費15,000円を計上したとのことである。

櫻井幹事より専門研究会の回数、技術室関係会議、将来短期研究会等の会議支援、グループ幹事会の今後の開催形式についての質問があった。鈴木幹事からは今後のグループ幹事会はオンライン開催の方針で決まったはずであるとの回答があった。また、将来短期研究会等の会議支援について、確認してみるが今後は支援しない方針に決まったはずだとの回答があった。

本件について特に異論がなく承認された。

6. 令和4年度(2022年度)活動

鈴木幹事より原子炉利用研究者グループ活動予定表の案が示された。今年は2年に1度の選挙が実施される年にあたるため、前回の選挙実施日とほぼ同じ期間に実施を計

画しているとのことである。なお、2021年6月の幹事会にて、今後の幹事会・総会にはオンライン会議を活用することに合意された旨、説明があった。
本件について特に異論がなく承認された。

7. 定期メール配信の停止及び会員名簿の公開について

鈴木幹事より、会員に配信している定期メールの内容は、選挙情報を除いて共同利用からの配信メールでカバーできることから、総会案内、選挙関連、臨時の通知のみとすること、及び、個人情報の観点から会員名簿の公開は選挙年のみに変更する旨の提案があった。
本件について特に異論がなく承認された。

8. メール審議について

鈴木幹事より、定例幹事会までメール審議する必要のある案件が出た際、メール審議の形式をとることになるが、半数以上の賛成で可決とする旨の提案があった。
本件について特に異論がなく承認された。

9. 残高70万についての有効な利用方法について

鈴木幹事より、残高70万円が繰り越されている状態であるが、KURが実質4年で停止することになり、その後の共同利用がどのような形になるかは流動的であることに加え、KURが停止することになると実質的な共同利用の件数が減ることは否めないということで、KURが動いているうちに残高70万円を有効に使うための利用法について検討するためのワーキンググループ(WG)を立ち上げ、幹事会での議論を経て令和5年度予算案に反映して総会で議論してもらえるようにしたい旨、提案があった。WGのメンバーとしては所内からは櫻井先生、高宮先生、堀先生の3名、所外からは九州大学の渡辺先生、近畿大学の佐野先生、東工大の中村先生の3名の先生方に内諾頂いたとのことである。
WGの設立とその構成メンバーについて諮ったところ、特に異論がなく承認された。

10. 名誉会員の推薦について

鈴木幹事より、名誉会員の推薦を募ったところ、高宮先生から大阪大学の篠原厚先生(大阪大学名誉教授)、木野村先生から栗山一男先生(法政大学名誉教授)の推薦があったとの報告があった。今後は本幹事会で承認を受けた後、事務局から名誉会員に推薦のあったお二人の先生にご内諾の可否を確認し、総会で承認が得られれば名誉会員になるとの流れになる。総会までに推薦があれば引き続き幹事会でメール審議に諮らせて頂くとのことである。
本件について特に異論がなく承認された。

報告：

1. 第4期中期目標期間における共同利用・共同研究拠点の認定のための要望書提出に対するお礼状について

鈴木幹事より、共同利用・共同研究拠点としての要望書を令和3年1月28日に京大複合研所長宛に利用者グループから提出され、この要望書は利用者グループのホームページに掲載しているとのことである。その後、令和3年11月15日付で、文部科学大臣より「共同利用・共同研究拠点」として認定(認定の有効期間：令和4年4月1日～令和10年3月31日)を受けたことに対するお礼状が複合研所長からグループ宛に届いた旨、報告があった。

2. その他

鈴木幹事より、次回の原子炉利用研究者グループ総会は、2022年2月17日(木)12:00～12:45に開催されるとの案内及び参加登録状況についての報告があった。参加登録の締め切りは2月8日(火)とのことである。

以上